

ちよなばだ 手紙集 全七巻

편지

第四巻

4

失敗だらけの、ぼく

落第と、再起の話

この巻はぜんぶで5話・約35分

韓国語と、ぼくの話。

ちよなばだ

ちなばだ 手紙集 —— 全七巻

少しずつ、全部そろようように。読み終えたら、次の巻へ。

第一巻 思考の自由

第二巻 遠回りをやめる

第三巻 自分のやり方を見つける

第四巻 **失敗だらけの、ぼく**

この巻

第五巻 韓国留学記

第六巻 世界が広がっていく

第七巻 調子に乗っていこう

第四巻について

ここからは、ほとんど韓国語の話を
しません。二度の落第、失くしたコ
ンパス。ぼくの失敗と、それでも立
ち直らせてもらった時間の話です。
うまくいった話より、こっちのほう
が、ほんとうは伝えたかったことか
もしれません。

目次

- | | | |
|----|---------------------|----|
| 24 | とんでもなくダメなヤツ。それは私です | 5 |
| 25 | 大事なことから逃げるのが大得意でした | 13 |
| 26 | 重い腰を上げたら韓国語への道が開けた件 | 22 |
| 27 | 番外編・二度落ちた話 | 33 |
| 28 | 失敗を許せる人でありたい | 44 |

とんでもなくダメなヤツ。それは私です

——約6分で読めます——

こんにちは。Youtubeやブログで韓国語の勉強法などを伝えているちよなぱだ@ぺごば韓国語です！いつもメールを見てくださって、本当にありがとうございます。今日からちょっとぼくの過去話をしていこうかと。

「韓国語、どうやって身につけたの？」って質問をたくさんいただくので。長くなるんで、何回かに分けて書きます。韓国語の勉強法とかも、途中にはさんでいくつもり。あのね、今はぼく色々と偉そうに語ってると思うんです。

韓国語なんて簡単だよ、とか誰でも身につくよ、とか半年で6級受かったよ、とか

とか。それを聞くとね、もしかして「**あんたは優秀だったんでしょ**」とか思うかもしれない。けどね。

いやーとてもしゃないけどそんなこと言えない。今でもね、ぼくは人が普通にできることをできない。いつも使ってる電車でも5回に1回は間違っただのに乗る。**傘は月に2本ずつぐらいなくす。**

面接なんか受かる気しないしそもそも行くのが怖い。みんなが働いてる平日にも夕方起きて「**あちゃー**」とダメ人間を実感するのもしばしば。これは今に始まったことじゃなくて。

ぼくはずーっと、ずーっと、ダメな感じの人間だと思っていた。弟たちが普通にこなすことをぼくはできない。公園でお友達をつくることもできないし兄弟で同じ悪さをしても叱られるのは2番目のぼくばかり。（これはぼくの思い込みだと思ってい

ただ、大人になっても「**あなただけ叱られてたよね**」とまわりの兄弟が言うのでどうやら本当だったらしい)

買ってもらった帽子は3日後になくすしゲームセンターで取った景品は5分後にどこに行ったかわからなくなった。学校では、絵を描くのがいやでいやでみんなが描いている時間に何もしないで過ごした。

音楽の教科書もどこにいったかわからず毎時間「**忘れました**」で通した。中学校に上がり、部活に入っても毎日行くことができない。どうして弟たちは楽しそうに毎日通えるのか不思議だった。

引っ越したら引越し先の方言にまったく馴染めず、口数が減った。高校になっても勉強が嫌いだったので、大学も落ちた。どこも受からなかったのも、浪人した。浪人生のときは、自分が何も生み出さない、世界で一番ランクの低い人間だと思って、で

きるだけ食費がかからないようにお昼はコンビニのおにぎり1個で済ませた。

1年後に受かる保証なんてなかったしまった1年、同じ生活が待ってるのかと毎日不安で仕方がなかった。かといって勉強に一生懸命になろうとかそんな健全な考えが浮かぶこともなく「予備校に行ってくる」と家を出て漫画喫茶で過ごすこともあった。

「ぼくには何もできない」「ぼくは何の価値もない人間だ」「ぼくに期待できる未来は何一つない」そんなふうに自分を責めたしどうやって切り拓いていいかもわからなかった。

ぼくは何もできなかつた。ぼくは何もできなかつた。ぼくは何もできなかつた。それが、ぼくが抱いたぼく自身に対する評価だったし、おおむねのところ真実だったのだと思う。

つまりは、ぼくはコンプレックスのカタマリだった。劣等感にさいなまれていた。ぼくは普通の人より劣った人間だと思っていた。特にぼくの心を痛めつけたのは、「何にも一生懸命に取り組んだことがない」という事実だった。

何も興味を持てるものを見つけたことがない。何も頑張ったことがない。何も成し遂げたことがない。成し遂げたことがない無能力な自分は、学歴だけはつけられないと思った。

学歴があれば、就職した後楽できると思った。ダメな自分でも定年までズルズル過ごせると思った。それでも、勉強がいやでいやでなんとかズルできないかと考え、勉強法の本ばかり読んでいた。

そうしたきっかけで見つけたちょっと裏技的方法で、人よりずっと少ない勉強時間で大学に入った後は、ただただほっとし

た。就活の時期までに終身雇用・年功序列が崩れないでくれと思っていた。

大学で人生最後の猶予を堪能した後はただただつまらない仕事に耐えて残りの人生を過ごすのだと思っていた。就職活動は有利だった。いわば裏ルートが用意されていた。就活サイトに登録すると、向こうから電話がかかってきた。

「今度、喫茶店でお話ししましょう」そんなふうには大学のOBが、新入社員のリクルートに来る。そうして残念な感じのぼくでも就職活動は進んでいた。**就職活動では、「学生時代に何を頑張ったか」と一番いやな質問をされる。**

何も頑張っていなかったから、答えが苦しかった。それでも語学は趣味で少しやっていたから**「語学を頑張りました」**と答えていた。でも、自分で自分を疑問に思っ

た。「語学を頑張ったんなら、なんで一つだっけまともに話せないんだろう？」

柄にもなくそんな疑問が浮かび、悩み始めた。そのまま就職してしまうのが怖かった、というのが本音だったのかもしれない。そうして、ぼくは、すべての会社に断りの連絡を入れ、就職活動を辞めた。

(つづく) という感じで、ぼくのダメさ加減はわかっていただけかなと思います。ここからぼくが韓国語を身に着けるまでどんな経緯があったのか。そのあたりから次回(?) 書いていきたいと思います。

あのね、ぼくがさブログとかYoutubeで「**あなたには価値がある**」「**あなたはできる**」ってひたすら言い続けてるのはさ。ぼくのこういう過去があったからなんだよね。ひたすら無力感にさいなまれていた。

身近な人と比較して劣等感を持っていた。何にも熱中したことがなかった。でも

ね、そんなぼくでも、韓国語はできたし、韓国語をきっかけに、いろいろと挑戦できるようになった。

まわりの人を見ててもおんなじ感じなんだよね。韓国語をきっかけに飛躍してる人、たくさんいる。だからね、これからはぼくは伝えていきたい。あなたは何にもできなくなんかないしあなたのできることに価値があるしあなたは誰かの希望になれる、ということ。

そして韓国語は、そのきっかけになるよ、ということ。じゃあじゃあ大変長くなったけど、もし最後まで読んでくれてたらありがとうございます。また次回、お目にかかります。

あんによん。ちなぼだ

大事なことから逃げるのが大得意でした

——約6分で読めます——

こんにちは、ちょなぼだです。いいことがありました。さすがですねFバーガー！頼んだものを席で待ってたら、「すみません品切れでした。代わりに別のもので許してください」的なことを丁寧に言われ、ぼくはそういうのみじんも気にしないから「は——い」と返事して待っていました。

すると、代替りの商品を持ってくると同時に「これ、ドリンク券です」と、スタンプがいっぱいに押されたポイントカードをくれたではありませんか。なんとも太っ腹。ということで、タダでドリンク券をゲットしました。

こういう対応ってなんかすごい得した気分ですね。日本語教師になる学校通ったときも学校近くのFバーガーで毎朝朝ごはんを食べてたけど、やっぱりFバーガーは素敵。こういうアクシデントをプラスの方向に持ってくその手腕に感激。

ということで、韓国にいたときの話第5回。韓国に渡って3級クラスに入ったけど、ダントツ最下位。そんなぼくは、作戦を立てることにしました。最終ゴールは9ヶ月で6級まで進むこと。

そのためには飛び級が必須。飛び級には90点以上が必要。90点以上はクラス上位に相当するらしい。ということは「**3級クラスで上位に入ること**」が目下の目標になる。そうか、クラスで上位に入らなくちゃいけないのか。

まじかあ。ダントツ最下位なのに、上位に入らなきゃいけない。うーー

ん、、、まあ無理だろう。**あきらめるか。**だってね、クラスみんなはすごいペラペラなの。特に、バングラデシュ人の彼はめっちゃ早口で授業中もしゃべりまくる。

彼が言ってることはなんにも聞き取れない。日本人も、「あなた級まちがえてない？」って思うようなペラッペラペラペラな人が普通に同じクラスにいるわけ。わかんない言葉でギャグを言ってぼく以外みんな笑ってたりする。

なんだろうね。やっぱり3級は無理だったか。先生に言って2級におろしてもらうか。ってか2級でもあやしいかもだし。だってぼくはこんなにできない。テキストを見たら習ったことない文法が前提知識として出て来るし知らない単語ばかり。

授業中のペアワークとかも先生の指示がわからなくてクラスメートに何度も説明し

てもらおう始末。やっぱり、こんなクラスに無理やり入れてもらったのは間違いだったかな。ましてや飛び級なんて夢のまた夢だった。

ゆっくり、基礎固めして、いけるところまでいければいいか。6級までいけなくてもしょうがないか。そんなふうにしばらく悩んだりしていましたね。相変わらず下宿のアジュンマの話やほかの住人の話はわからなかったし。

ぼくとコミュニケーションを取ろうとすごいゆっくり話してくれたり英単語を混ぜて言ってくれたりなんだかすごい迷惑をかけている気がした。ぼくが何か言っても、困った顔をされる。

何言ってるか通じないみたい。こっちも、パニックになって、あ、、、いいです。みたいな感じで言葉をひっこめちゃう。お互い苦笑い、みたいな。そんな状況

だったから、6級なんて、高望みだったかもしれない。

4級の人に飲み会に呼んでもらって、彼らがしゃべってるの聞いたらもう神にしか見えなかった。もうペラペラだった。ぼくは日本人と日本語で話すしかできなかった。そんなレベルだったから授業の予習と復習でかなり精一杯だった。

それ以前に、日本から持ってきた参考書も進めなきゃ、今のクラスの勉強もわからない。無理かな、と思った。無理だろうな、と思った。やめようかな、と思った。のんびり進んでいこうかな、と思った。

でも、うらやましかった。みんながペラペラしゃべってる姿は単純にかっこよかった。ぼくもそうなりたかった。だって韓国語を身につけるために韓国に来たんだもん。ぼくは、就職活動をやめて休学して韓国に来た。

そのまま就職するのが怖くて逃げたという面は大いにある。ほかの友だちは就職活動を頑張っているのに。世間のみんなは働いているのに。ぼくは逃げて韓国まで来た。高校のときも、部活の合宿はつらいから行かなかった。

みんなは参加してるのにぼくはつらいから参加しなかった。しんどい目に遭うのが嫌だった。逃げてばかりだった。だから、何も一生懸命がんばったことがない、達成したことがないことが劣等感になり、コンプレックスになって、自信を失っていた。

ぼくは就職活動をやめ、韓国語を身につけるために韓国に来た。バイリンガルになりたい。韓国語を身に着けたい。そんな思いで来た。好きなことを思う存分やるために韓国に来たのだ。

韓国語を好きなだけ勉強していい環境に来たのだ。それなのに、ぼくは今、韓国語

からも逃げようとしている。難しそうだから。しんどそうだから。そもそもレベルが高すぎたから。

今まで独学でしかやってなかったから。だから、ゆっくりやろう。無理のない範囲でのんびりやろう。そんなふうにはぼくはまた、逃げようとしていた。逃げた先は決まっている。

韓国語が中途半端に上達して「韓国語、できるの？」と聞かれたら「はい、ほんの**少しだけ・・・**」と自信なさげに答える。そうして、自分自身の情けなさに嘆き、さらに自信をなくす。

そんな未来が見えていた。でも、ぼくは、逃げるために韓国に来たんじゃない。苦しむために来たのでもない。自分で来たくて、韓国語を身に着けたくて、好きなことを存分にやりたくて韓国に来たのだ。

誰に強制されたのでもない。自分で来ることを決めてその環境に飛び込んだのだ。今までは、バイリンガルになるのは難しいと思っていた。そんな環境もなかった。でも今、絶好のチャンスが目の前にある。

まわりはみんなバイリンガル。上達する環境はそろっている。あとは自分がどれだけやれるかだけ。そうだ、ぼくは、韓国語が好きだったんだ。あこがれだったんだ。幼稚園のときにバスで見知らぬ韓国人がガムをくれたときから不思議な文字に興味を持ったときからなんとなく韓国に縁があった。

韓国人の、親切過ぎるほどの親切さに助けられ、辛くて美味しい韓国料理にひかれ、なぜかわからないけど空港に降り立った瞬間から自分の居場所に来たという感覚がある。そんな韓国にいられる幸運を、かみしめなければいけないと思った。

語学を身につけられるチャンスを絶対にものにしなければいけないと思った。韓国語と共通点の少ない言語圏の人たちががんばっている。ぼくよりはるかに苦労するはずの人たちががんばっている。

日本語ができるぼくは、はるかに有利な位置にいる。日本語ができるというだけで、韓国語を少ない努力で身につけられる「才能」を得ている。

・・・やるか。

そうしてぼくは、韓国語をがんばることに（ようやく）決めた。じゃあどうしたらいいんだろう、とぼくは考えた。「そうだ、クラスで誰よりもたくさん勉強したら、追いつけるかもしれない」

また無謀なチャレンジを思いついた。そうしてぼくは、また無茶な計画を練り始めた。（つづく）ちなばだ

重い腰を上げたら韓国語への道が開けた件

——約8分で読めます——

こんにちは、ちなぼだです。数回に渡って、ぼくが韓国語を身につけるまでの過去話をお届けしています。今回は**2回目**。前回は、ぼくがいかに残念な感じだったかという話をしました。

弟たちが普通にできることがずっとできず、劣等感を持っていた。**部活が続かない**。現役では大学に1つも受からず浪人しても希望の大学には行けず。就活では「**語学をがんばった**」と答えてたけど、英語も韓国語もまともに話せなかった。

そんな自分に違和感を持って就職活動を辞めた。**そのあたりのお話をしました**。けっこうね、お便りいただきます。「ちょ

なばださんも、そんなだったんですね！
なんだか希望が湧いてきました」

系のお声から、「まあ、そんなわきゃない」系のお声まで。反応は人それぞれ。ご自分の思うように受け止めてくださればいいです。ぼくのお話を別に信じてくれないでもいいですし。

っていうか世の中のすべてのことは別に信じる必要ないですよー。たとえ親が言ってることであろうと。先生が言ってることであろうと。それなのに、何かを当然のように信じて変な洗脳を受けちゃうんですから。

語学は難しいからできるようにならない、とか。勉強は紙の辞書をめくりながらノートに何回も書いてやるものだ、とかね。ぼく自身も長らくそうでしたし。信じやすく、流されやすく、すぐに「偉い

人の話」とか「みんなの意見」に左右されちゃう。

なんか、ぼくは性格分類上、そういうタイプみたいですね。多数派に属するのが安心、とか。みんなと一緒に楽しくやるのが好き、とか。でもみんなと仲良くなれない。だってコミュ障だから。

自分に自信ないから。**まあつまりは八方塞がりでしたね。**人生、不安で仕方なかったです。無能力であるばかりか、サボリグセがある。他人に依存的で、誰かが状況をなんとかしてくれるんじゃないかといつもどこかで期待している。

そんな、今思えばどうしようもない人間でした。でも、当時はそんなことも気づかなかった。目の前のことで精一杯だったから。ぼくなり毎日必至で悩みいっぱいいっぱいな気分で生きていました。

果たしてぼくの人生、良い方向に行くんだらうか。ぼくのがれはいつか、叶うんだらうか、って。ぼくはずっと、多言語話者にあこがれていました。シュリーマンはじめ、何か国語もあやつる人の話を読んでかっこいいと思っていました。

いいなあ、すごいなあ。ぼくもいつかそうなりたいなあ。英語もペラペラになって、そのほかの言葉も上手になりたい。かっこいい多言語話者になりたい。思えば、すべては無能力感や劣等感から来ていたのですが。

それについてはまた今度★就職活動を続けることに悩んでいたぼくは、どこかに留学に行きたいと思いました。海外へのがれから、大学では国際交流サークルに入り、各国からの留学生と過ごしていました。

出身国はさまざまで、韓国をはじめ、中国、イギリス、ウクライナ、ポーランド、ベトナム、タイ、ブルガリア、オーストラリア、米国、シンガポールなどなど本当に多種多様。

共通しているのは、彼らは皆、日本語がペラペラだということ。一人で日本という外国に来て、外国語で授業を受けて、日本の暮らしを堪能する。勉強も、日本人の学生とは違って真剣に取り組む。

それに加えて遊びも全力です。1年間と、滞在期限があるからこそ1日1日を無駄にしないように命を燃やしていたのです。おまけに、表現がとてもストレート。日本人同士にありがちなあれやこれやの面倒くさいことはありません。

よく言えば自由、悪く言えば自分勝手。そんな彼らと過ごす時間は楽しく刺激的でした。すごいなあ、かっこいいなあ、ぼく

もそうなりたいなあ、と憧れていました。でも、英語しゃべれないし、外国行くのも怖い。

何より、自分の力で何もかもやっていかなければならないことに恐れを抱き、ずっとずっと、ためらっていました。それでも、就職活動に際し、将来を見つめたときに「このままの道を進むのはイヤだ」とも思いました。

バイリンガルになりたいという小さい頃からの夢を叶えずに人生を歩いていくのはイヤだ。何かを頑張ったという記憶もなしになんとか就職していくのがイヤだ。好きでもない仕事を、安定しているからという理由で何十年間続ける未来にぞっとしました。

外国へ行くのも怖いけど、このままレールに乗ってあと何十年後に後悔するのはもっとイヤだ。人生が終わる間際に「あの

とき、挑戦しておけばよかった」と後悔するのはもっとイヤだ。

そんなふうを考えるに至ったのは、当時ふと読んだブログの影響だったのですが。名前も知らない一大学生が書いた日記のようなブログでした。その人はぼくの人生を変えたことをきっと知らないんだろうな。

そのブログにまんまと影響を受け、終身雇用・年功序列でひたすら会社にしがみつきたかったぼくの考えは大きく変わっていました。この辺、詳しくお話ししようとするとしても長くなるんですが。

とにもかくにもぼくは、重い腰を上げました。自分の中で、バイリンガルになるという夢をかなえることに決めたのです。そのとき、2005年の3月。翌年の1月には帰国して就職活動を始めようと思っていました。

だから、行ける期間は9ヶ月。その間で
なんとしても何かの外国語を身に着けたい
と思っていました。英語は、できる気がし
なかった。さんざん勉強したのに「しゃべ
れる」という確信がない。

中国語は、好きでした。第二外国語で選
択し、楽しんで勉強していました。中国語
は、英語のときのような「しゃべれる気が
しない」という抵抗はなかった。英語のよ
うに長い間、洗脳を受けてこなかったから
ですね。

そういうこともあり、中国へ行くことも
有力な候補でした。でも、9ヶ月という時
間を考えたときに、その短期間で身につけ
られるのは？と考えたときに、「韓国語が
一番簡単らしい」という話を思い出しまし
た。

日本に来ていた留学生でも、韓国人が一
番日本語がうまかった。「韓国語と日本語

は近いよ」という話も聞いていた。自分で勉強していて、とてもよく似ていることも実感していました。

そうして、ぼくは、思いました。そうだ韓国、行こう。決めた瞬間、心がとっても軽くなった。今までいかに、社会からのクサリに縛られていたのかをはじめて実感しました。ああ、いやだったんだ心が望んでなかったんだぼくのやりたいことは、韓国に行くことだったんだ。

その決断に納得がいき、韓国留学について猛然と調べ始めました。当時、今ほど情報はなかった。それでも、親切に留学記を載せてくれてるサイトが1つありました。そのサイトを何度も読み、行先を決めました。

ソウルの、高麗大学というところに行こう。ああそういえばその2年前、旅行でソウルに行った時Korea Universityというロ

ゴの入ったシャツを来たお兄さんがいて、
写真を撮ったんでした。

なんか韓国を代表しているような気がして「いいじゃん」と思った。そうしてぼくは、あらゆる手続きを猛スピードで済ませ、インチョン行きの飛行機に乗り込んでいたのです。

(つづく) 韓国に着いてからのことはまた次回から書いていきます。ぼくに韓国へ行くきっかけを与えてくれたのは、たった1つのブログでした。そのブログの言葉がぼくに刺さったというわけです。

何気なく書いたあなたの経験や考え方が、人の人生に影響を与えることってあるんですよね。あなたが書いた言葉でどん底にあった誰かの気持ちを0.1%でも軽くすることができるかもしれない。

あなたが気づいていないだけでその人はずっとあなたに感謝しているかもしれませ

ん。そういう意味もあり、ぼくは、情報発信してみませんか？ということを書き、ブログとかに書いてきたし、今後もどんな形でかプッシュしていくつもり。

人に貢献しているという「**感覚**」を持つことって、何より自信になるんですよね。それが、あなた自身が何かに挑戦するときの助けになる。**自信って、いわば前進のためのエンジン**なんですよ。

ゴールが明確であろうが動機が立派であろうが、実はこの「**自信**」がなければなかなか前に進めないんだよね。今となってはそのメカニズムもわかるんだけど、昔のぼくは知らなかった。

だから余計な苦勞をしましたね。そのおかげで学んだこともたくさんあるんですが。あ、そろそろ出ないといけないので、すごい中途半端ですがまた次回！ちょなばだ

番外編・二度落ちた話

——約7分で読めます——

こんばんは、ちなぼだです。えーと今は3月22日の夜20:30くらいですね。あったかくなかったと思ったらまた少し寒くなるみたい。難儀やなあ。それで今日スパゲティを食べたから言うんだけどスパゲティはフェットチーネ派です。

うどんはきしめん。平べったいのが好きですね。ラザニアも好き。なんでだろう？得した気分になるからですかね。で。発表シーズンですね。何のって、受験とか。あるいは就職活動とか転職とかそういうのも活発な時期なのかもしれません。

そんなわけで今日は番外編。ぼくの落第話をしましょう。あんま韓国語の話しないから興味なかったら今回はスルーしてまた

次回から見てね。で。ぼくは大学に2回落ちてるんですね。

1年目、希望の学校に行けなかった。2年目、また落ちた。そういう感じ。もちろん、残念でした。がっかりしましたよ。ガッカリじゃあ生易しいかな。だってね、中学のときから漠然と行きたかった大学だったんだもの。

数年ごしの夢がついえた瞬間。ぼくってね、妄想が好きじゃないですか。だからね、いろいろ想像してたの。あそこの大学通ったら、どんなことしようとかサークルは何をしてどんな楽しい生活が待ってるのかな、とか。

写真の切り抜きを、机に貼ってたりもした。ここに行くんだ、と思って毎日ながめてた。でもね、落ちたな。2回挑戦してダメだったな。1回目はセンター試験が失敗で1月でぼくの受験は終わったの。

そのあとはひたすら毎日ケーキのスポンジを焼いてたよ。ちゃんと膨らむように混ぜすぎないように注意して、オーブンでスポンジを1台焼いて、まるごと一人で食ってた。それが毎日。

おかげでけっこう上達したよね。きちんと高さが出るようになった。デコレーションも味付けもなんもしないでスポンジだけぺろっと食べてたことからぼくの失意がどれだけだったか推し量ることができるでしょうか。

「浪人」ていうのが存在することは知ってたよ。世の中にそういう制度があることは聞いてた。でも。でもね。まさか、まさかこの自分が、それになろうとは。思いもしないよね。

人ってその状況にならないと想像できないもんなんだ。それで、ぼくは、もちろん嫌だった。こんなはずはないと思った。ま

た1年間勉強するのか。しかも受かる保証ないし。でもしょうがないよ。

仕方ねえ。予備校に通うことにした。誰よりも早く手続きに行ったよね。そんな時期に受験が終了してる人なんてほかに誰もいないんだから。予備校にチラシ置いてあってさ。「アメリカの大学に行かないか？」

みたいなの。「**今から簡単入学できまっせ**」みたいなの。ぐらっと来たよね。思わず、ちょっと真剣に検討した。弱ってるときって、なびいちゃうもんなんだ。アメリカに行く。そういう人生もいいかもなあ。

それでぼくは浪人はじめたよね。ぼくはなんて役立たずなんだ。社会に何の価値も生み出してない。**世界60億人（当時それぐらいだった）の中で一番下**の人間だ。ぼくにまともな昼食をとる権利なんてない。

だから切り詰めた。コンビニのおにぎり1個か。マクドナルドの80円ハンバーガー1個か。そういうのを、公園で食べた。お金も使っちゃいけないから図書館に通ったよね。ぼくの娯楽は図書館。

なんせ時間はいっぱいあるから。いろいろな本を読んだ。そのときにもね、いろいろな勉強法の本を読んだの。合格体験記とか。速読のやつとか。記憶術とか。多言語話者の自伝とか。

予備校の授業はさ、なんせプロだから。すごく面白かった。東京のトップ講師の講義を、遠隔の校舎でおおきなスクリーンに映して見てたのね。まァYoutubeで講義を見るみたいなもんだわ。

そういう授業形式だった。そんなこんなで1年を過ごし。また受験。まァ落ちたよね。第1志望は受からなかった。浪人して

1年先送りしたけど、希望の学校には行けなかった。

受験の直前で、うまいこと書けなくなってさ。あ、何を書くって？なんでも。これはいつか話すかもしれないし話さないかもだけども。ともかくも、大学にはずうずうしくも受かるつもりでいたから落ちるってのはプランになかったんだけどね。

でもさすがに2年目は、ほかの学校も受けてて。受かったところに行くことになった。上京するプランだったんだけど、それはダメになった。おかしいなあ。どうしてぼくの人生こうなっちゃったんだろう。

合格しやすい学部を選んだから学びたい学問ですらなかったんだ。というのが、当時のぼくの視点から見た世界だったんだけど。でもね。今思えば。浪人した→勉強法をたっぷり研究する時間ができた暇な時間に図書館に通った→おかげで、語学の速習

法をよく知ってるし、みんなに伝えられるようになった違う大学に通った→おかげで、韓国人&韓国語との出会いがあり、楽しい経験やすごい先生とコラボできるようになったとかとかね。

いろいろさ。マイナスと思ったことって実は全部、プラスだったんだよね。全部が今のためにあったというか。実はぼくは大学のほかにも就職活動その他でも希望にそぐわない経験をしてるんだけど。

なんせニートもフリーターも経験してるからね。これはまた今度書くかも。でもさ、そういうのも全部、プラスなんだわ。というか、自分の人生にあるべきものだったというか。

それがもしなかったら、今の人生になってないというか。あとね。数々の企業が、特にアメリカの企業が「**うちは失敗経験のない人は雇わない**」ってゆってるらしー

よ。だってね、人って失敗から一番よく学んだよ。

これは科学的に説明できる。失敗＝死だからね。動物って、死の危険を回避するようになってるから。**だから失敗した人が、一番学んだ人なんだよ。**覚えがあるでしょう？失敗した結果、学んだ経験って、あるんじゃない？

簡単な例で言うと薄着しすぎて風邪引いた。今度はちゃんとマフラーまくようにしよう。とか。これも、失敗から学んだ結果よりイケてる人間になった例やんか。でね。「もし、こうだったら今ごろどんなに素晴らしかったことか」

って妄想するのはやったらいかん。妄想到現状が負けるのは当たり前だから。今より良い状況しか妄想しないからね。「**妄想と比べたら今の状況最悪やん**」って思うのは当たり前。

だから無理にそれをやって自尊心をくじく必要はない。(人ってこれやりがちだから一度思い当たることないか考えてみてね?) ほいでやで。結論は。今はつらいやろう。ショックやろう。

もう人生あかんと思うやろう。でもね、ありきたりだけど点はいつか線になるんだよ。ばらっばらだった点が一本でつながるんだよ。そこで「**ああこういうことやったんか**」「**あんときの失敗はこんな形で今につながっとるんや**」

って思うときが来るんちゃうかなあ。っていうのはもちろんぼく個人の経験と意見だけど。村上春樹のノルウェイの森で主人公が彼女を亡くして港で泣きじゃくる場面があってね。

漁師が、状況を聞いて、「**自分も母を亡くしてなあ**」という話をしだしたわけ。それに対して主人公は「なんでお前は今そん

なお前の母親の話をしてるんだ。おれは直子をなくしたんだぞ。お前の母親なんかじゃないんだ。あの直子がしんだんだ」

とかってね。心のなかで暴れる場面があるの。こういう気分になることって人間あると思うんだけど。だからね、ぼくの経験をあなたの今の状況とかに無理やり当てはめろってわけじゃない。

聞き流してくれたらいい。K-POPの歌手もさ、良いこと言ってるし。BLACKPINKに興味があってもなくても「挫折を何度も経験したけど頑張って何かを達成した人」

が語った言葉としてぼくはすごく価値があると思うんだよなあ。というわけでそれに関してYoutubeでぼくは語ったこともよければ見てみてください。「**挫折**」は「**魅力**」だと思っ件について。

「BLACKPINKが練習生にしたアドバイスから思う挫折の乗り越え方」ほいじゃあね。ちなばだ

失敗を許せる人でありたい

——約9分で読めます——

こんばんは、ちなぽだです。もう21時近いっていうのにマジで長くなりました。**しかもウザいと思います。**なのでウザいのが嫌いな多数派の人は今回のメールは飛ばしてまた次回のを読んでください。

ぼくはメールを書き終えて今この部分を書いているのもちもちたまごむしたまごの
コクとまろやかな味わいを食べることにします。**むしじゃないです。むしパンですよ。**カラをやぶったヒヨコの絵がかわいいです。

ではウザいメールの始まりです。ここまでもけっこうウザかったけど。本当に長いので警告をしておきますね。メールを閉じ

るなら今だよ！ではスタート。ぼくは失敗が多いです。

ミスばかりしてきました。人に迷惑ばかりかけてきました。ぼくの母は学生時代、山岳部でした。山に行くたびに持っていていた大事なコンパス（方位磁針）がありました。もう30年も40年も使っていました。

ぼくもそれを借りて使っていました。方向音痴なのでスマホがなかった時代、コンパスを持ち歩いていました。そしてぼくはそれをなくしました。ぼくはよく失くしものをするし、落とし物をします。

あろうことかその大事なコンパスさえ、どこかで落としてしまいました。探しても見つかりません。どうしても見つかりません。母はとても悲しむだろうと思いました。ぼくも胸が痛かった。

でも、自分で招いたことでした。100%
ぼくが悪いです。ぼくのミスでありぼくの
失敗でした。母に言いました。コンパス
を、落としてしまった。ごめんなさい。す
ると、母は、そう、と言いました。

それだけでした。母は、物を大切にする
人です。穴の空いたズボンも、アップリケ
をつけてはかせてくれました。ぼくはそれ
がかっこ悪くていやでした。図工の時間の
彫刻刀も、母のものを使いました。

もう30年も前のものなので、切れ味が悪
いです。母の旧姓もペンで書いてありま
す。ぼくはその切れ味の悪い彫刻刀で掘っ
ていました。クラスメートは新しい彫刻刀
で借りたらとても切れ味がいい。

うらやましいと思いました。でもぼくは
ずっと母の彫刻刀で掘っていました。中学
に入るときにも制服は知り合いからのお下

がりでした。ぼくは新品が良かったけど、でもお下がりを着ていました。

ああどうでもいい話をしてしまった。そのへんのくだりはどうでもいいです。言いたかったのは、**母はとても物を大事にする人だったということです**。もちろん、コンパスも大事にしていました。

ずっとずっと使っていました。ぼくはそれを失くしました。母は、そう、と言っただけでした。母もコンパスを持ち歩いていました。次の時には、母のコンパスは100円ショップのものになっていました。

またどうでもいい細部の話をしてしまった。ぼくが言いたいのは「**失敗を許せる人でありたい**」ということです。ぼくは人よりたくさん失敗をしてきました。だから偉そうには何も言えません。

家でも学校でも仕事でもたくさんの失敗をしてきました。けっこうやばいやつもあ

りました。怒られたこともありました。でも、立ち直れないことはなかった。みんな、ぼくの失敗をフォローしてくれました。

ぼくと一緒に怒られてくれたこともありました。会社に損害を与えたこともありました。ぼくの失敗のせいで、人にたくさん迷惑をかけました。もちろん、それで離れていった人もいます。

ぼくが悪いので、仕方のないことです。でも、どうにかこうにか、ぼくは生かされてきました。失敗を許されてきました。再び立ち直るチャンスをもらってきました。ぼくぐらい失敗が多いとふさぎ込んでもおかしくない。

お前なんか必要ないんだ、と、排除されるレベルです。二度と立ち直れないぐらい叩かれてつぶされても文句が言えないほどです。でも、本当にありがたいことにぼ

くは何度も立ち直るチャンスをもたらしてきました。

チャンスをもたらしてもなおまた失敗することもありました。それでも、ぼくは今こうして無事に、何事もなく、パソコンに向かってキーボードを叩くことができます。失敗してもチャンスをもたらったおかげです。

一度の失敗すら許されない社会ではなかったおかげです。あたたかく許してくれ、チャンスを与えてくれた周りの人たちのおかげです。どれだけ恵まれていてどれだけ幸運なのかわかりません。

失敗を許してくれたおかげでぼくは、ぼく分野で、役目を全うすることができます。こんなぼくでも、世の中のどこかには必要としてくれている人がいます。その人の人生を良くするとまではもちろん言えないけど、でももしかしたら

0.000000001%ぐらいはぼくがいたおかげで世界が良くなったと思ってくれる人がいたりするんじゃないかと錯覚しています。

もし失敗が許されない社会であったならば、ぼくは今ごろ何もできていません。ぼくは人が普通にできることでも平気で失敗してしまうので1日たりとも失敗なしでは生きられません。

小さな失敗も大きな失敗も数限りないほど経験してきました。ひたすら人に迷惑をかけてきました。それでも、失敗をしてもなおもう何度でもチャンスをもらえたから、ぼくはこうして生きることができています。

だから、人にお世話になりっぱなしのぼくなんか言えることじゃないけど、少なくともぼくは、失敗を許せる人でありたいと思っています。ぼくほどではないにし

ろ、人は多かれ少なかれ、失敗をして生きていくんじゃないかと思います。

赤ちゃんだって失敗ばかりです。コップはひっくり返すし、床に落書きしちゃうし、大切なものを壊しちゃうかもしれない。でも、失敗を許して、もう一度チャンスをもたらえたからこそ、人は成長し、大人になれるんじゃないかと思います。

だからぼくは、失敗を許せる人でありたい。人が失敗しても、迷惑がかかっても、それを許せる人でありたいと思っています。もう一度チャンスをあげられるような人でありたいと思っています。

もしかしたら、人の失敗を許さず、あーあ、あいつやっちゃったねで終わるほうが、楽かもしれません。失敗を機に縁を切ったほうが、スムーズな人生を歩めるのかもしれません。

それでもぼくは、失敗を許せてまたチャンスを受けられるような社会になっただけいいなと思っています。もちろん難しいことです。そう思っているけどできないことのほうが多いかもしれません。

それでもぼくは、失敗を許せる人でありたいしまたチャンスを受けられる人でありたいと思っています。ぼくは失敗が多いからよく知っていますが、人は失敗をしたくてするものではありません。

望んで失敗するものではありません。一生懸命取り組んだ結果が失敗になることもあるし、ついつい事態を軽く考えてしまいそれが大きな失敗になることもあります。メンタルのコンディションがベストでないときの振る舞いが失敗になってしまうこともあります。

でも、失敗したあとには、誰よりも深くわかります。落ち込むし、反省するし、傷

つきます。人に迷惑かけといて何傷ついでんだよと思うかもしれないけど、でもやっぱり傷つきます。

知らないけど人って不完全なんだと思います。ぼくが未熟なだけかもしれません。

「**時間を戻したい**」と思います。「**あのときに、失敗する前に戻りたい**」と思います。そうしたら絶対に、二度と、失敗するような行動は取らないから、と、深く後悔します。

ほかの人は知らないけどでもぼくはそう思います。失敗したときにも、人から責められるのもつらいけど、自分自身が一番よくわかっています。許されたいわけではありません。

ただただ、何であんなことになったんだろうもし戻れたら、絶対にそうならないようにするのにと悔やみます。それだけ、苦しい思いをします。もちろん、それで人に

迷惑をかけている事実がなくなるわけでは
ありません。

でも、どうにもできないことがある。取
り返しがつかないことってある。自分では
どうにもならないんです。だから、ぼく
は、そんな失敗をたくさんしてきたから、
せめて人の失敗を許せる人間でありたいと
思っています。

人の失敗を許せない人は、自分の失敗を
許せない人だと思います。人の失敗を責め
る人は自分の失敗を責める人だと思いま
す。韓国語を練習していく中で、人はたく
さん失敗をします。

ミスをして、頭が真っ白になって恥ずか
しい思いをして、それで成長していくん
です。失敗を繰り返しながら徐々に上達して
いくんです。でも、失敗を許せない人は自
分の韓国語のミスも許せない人です。

ミスが許せないからチャレンジが怖くなります。挑戦しなくなります。人の失敗を責めてきたから自分の失敗をも責めます。韓国語を話すのが怖くなります。すると上達の機会が失われます。

韓国でも、失敗を許せる人がはやく上達するんだと思います。人の失敗を許せる人は自分の失敗も許せるから。だから、韓国語を学習する人は学習効率の観点から言っても、失敗を許せる人であってほしいなと思います。

失敗して、またチャンスをあけて、それで上達してほしいと思います。失敗を繰り返しながら、目の前の人の役に立ちたいと願うことで自分の才能を掘り起こして欲しいと思います。

そうして何か自分の分野で心から打ち込めることにとりくんでほしいと思います。みんながそうやって人の失敗を許して、

チャンスあげる。そんな社会になったら、みんな安心して挑戦して本当の自分を輝かせることができるそんな社会になるんじゃないかなと思います。

だからぼくは、人を許せる人でありたいと思います。ちなばだ

韓国語と、ぼくの話。

第四巻 失敗だらけの、ぼく

全七巻

著 ちよなぱだ

かつて配信していたメールマガジンより

「わたしを語る韓国語」プロジェクト